

干潟的環境(干出域等)の形成および淡水導入の試験に係る事前環境調査について(案)

2008年2月29日

1. 猫実川

平成18年度三番瀬再生実現化検討調査報告書によれば、高速道路より上流側は塩分が比較的大きく変化するが、下流側は殆ど変化しない。そこで調査地点を上流に多く、下流に少なくする。上流は淡水の影響が大きく試験候補地(淡水の影響が必要なアシの移植を予定)となる可能性が高いので多くする。下流は淡水の影響が殆ど無いので少なくする。調査点の凡例として(4点)は底質・ベントスとを調査する。(3点)では猫実川全体の環境把握を目的とし底質・ベントスの他に水質、流れも調査する。カニ類等大型底生生物の目視観測の実施は干出域への移動が可能な場合のみ実施する。

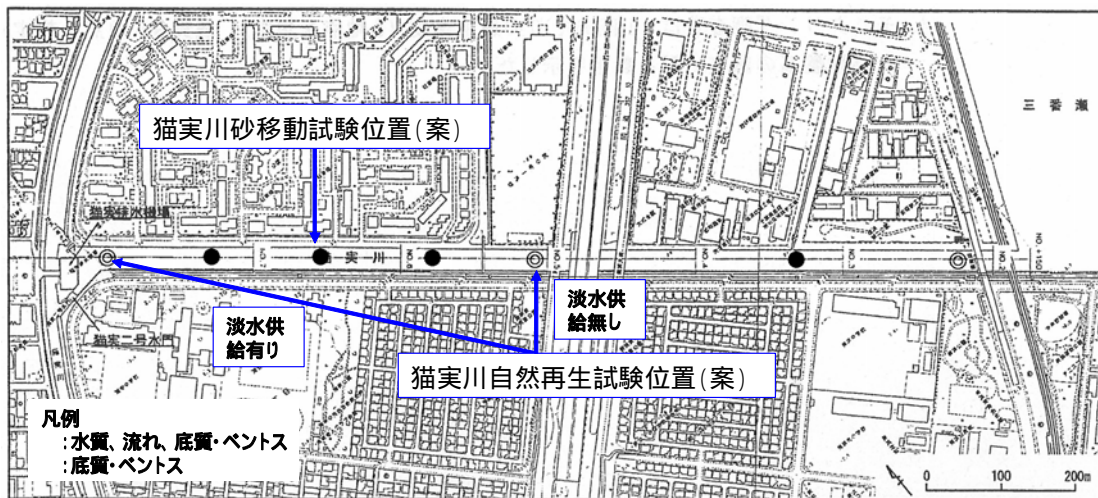


図1 猫実川の調査地点(案)

2. 塩浜二丁目護岸周辺

各試験候補地や、その周辺の環境を把握する目的で図2に示す6点で調査する。調査項目は水質、底質、ベントスとする。カニ類等大型底生生物の目視観測は干出しないため実施しない予定である。

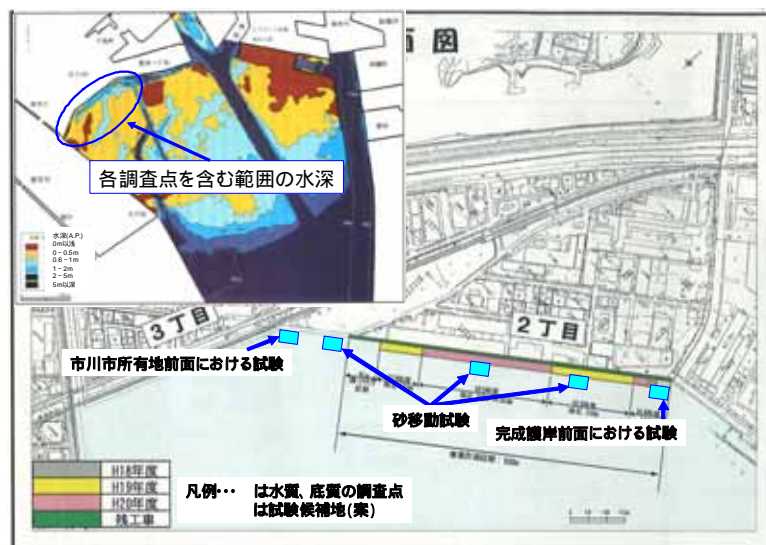


図2 塩浜二丁目護岸周辺の調査地点(案)

3. 日の出周辺

3.1. 干潟

現地を確認後、調査地点を6点設定する。6点で底質とベントスの調査を実施する。6点の中から、さらに代表的な3点を選定し、カニ類等大型底生生物の目視観測を行う(図3)。

3.2. 潮だまり

30cm×30cmの方形枠内に含まれる付着生物を採取する。方形枠は任意に選定した3地点で実施する。さらに潮だまりのサイズ(縦、横、深さ)も測定する。方形枠内に入らない大型生物については目視で確認する。

3.3. 転石

護岸と干潟の境目に点在する転石を任意に3個選択し、大きさを測定する(縦、横、高さ)。次に各転石の上面(転石の転倒が可能な場合は下面も)において30cm×30cmの方形枠1つの中に含まれる付着生物を採取する。石の転倒が可能な場合、石の下に生息するカニなどを目視で観察する(図3)。

3.4. 水質

1点を任意に選定し、計測器による測定と採水を行う。



図3 日の出周辺における調査地点(案)

4. 分析項目

分析項目は表1に示す。

表 1 分析項目

調査項目		調査地点数			
		塩浜2丁目 護岸周辺	日の出 周辺	猫実川	計
底質	酸化還元電位	6	6	7	19
	強熱減量	6	6	7	19
	硫化物	6	6	7	19
	粒度組成	6	6	7	19
	含水比	6	6	7	19
	COD	6	6	7	19
水質	水温	6	1	3	10
	塩分	6	1	3	10
	溶存酸素	6	1	3	10
	COD	6	1	3	10
	全窒素	6	1	3	10
	全リン	6	1	3	10
生物	マクロベントス	6	6	7	19
	付着生物	0	6	0	6
	カニ類等大型底 生生物	0	3	7	10